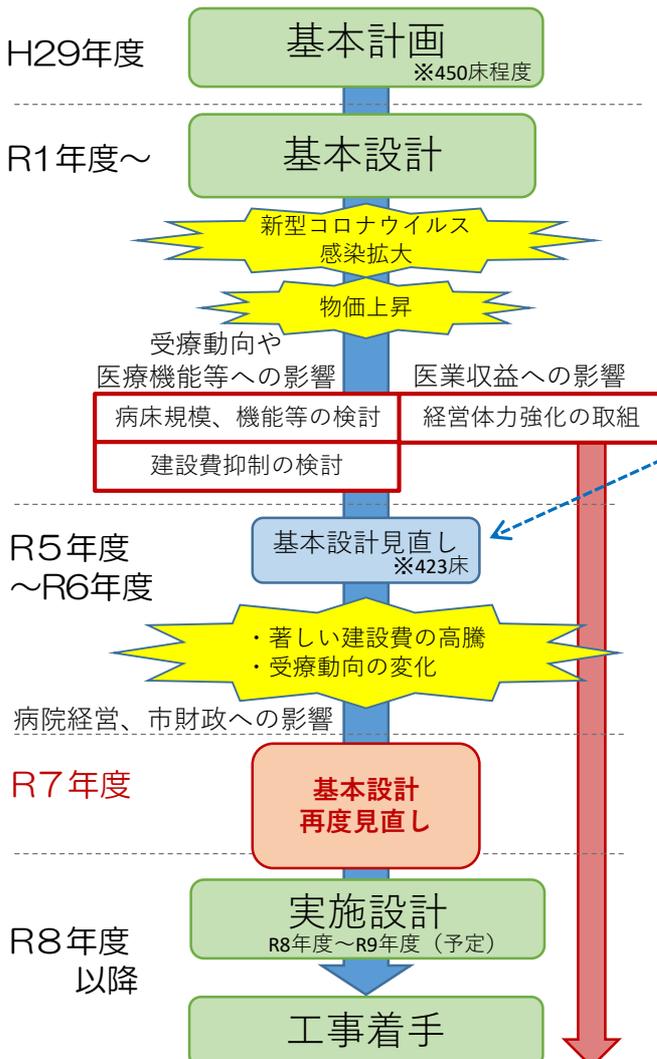


焼津市立総合病院 新病院建設事業

～病床数見直しについて～

<志太榛原地域医療構想調整会議 説明資料>

1.経過



新病院 完成イメージ



- <病院棟>
 - ・鉄骨造(免震構造)
 - ・9階建て(9階は電気、機械室)
- <リニアック棟>
 - ・鉄筋コンクリート造(耐震構造)
 - ・2階建て

R6.7.1志太榛原地域医療構想調整会議にて、新病院の病床数や病床機能等を説明した。

R5年度～R6年度 基本設計見直し内容

志太榛原地域の中核病院として高度急性期・急性期医療や災害医療の需要に応えるため、病院機能の強化、維持をしつつ、以下の見直しを実施した。

- ・病床数：423床
- ※ 新型コロナウイルス5類移行後の令和5年度の当院の患者動向を踏まえた患者数推計ピークに対応
- ・病棟形状及び可変性のある病室配置へ見直し
- ・各診療部門の合理化及び建物寸法の見直し
- ・手術室数を9室から8室へ見直し
- ・一般レストランの取り止め、講堂規模縮小
- ・心臓カテーテル室の整備
- ・第9次静岡県保健医療計画等に基づき、新興感染症感染患者の受入を想定した施設計画に変更
- ・国、市の省エネ、カーボンニュートラルの取組みへの対応(ZEB Orientedを目指す)
- ・周辺環境への配慮(雨水調整池の拡張) 等

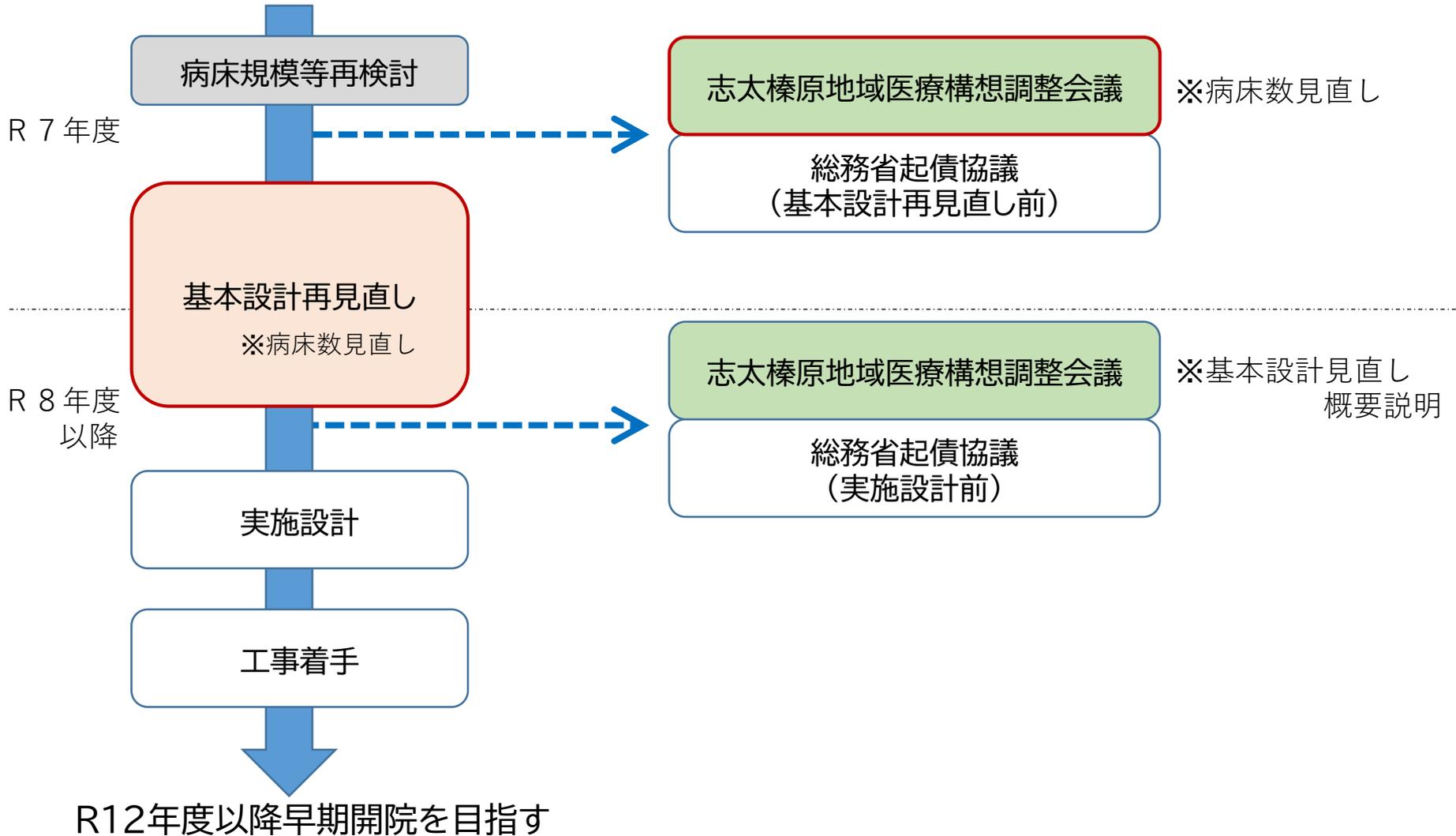
今後について

新病院建設事業費を抑制していくため、再度、基本設計を見直す方針

今年度の病床稼働率は新型コロナウイルス感染症流行前の状態まで回復しておらず、受療動向が変化している。また、今回算出した概算事業費は、物価高騰や労務費の上昇により増大しており、このまま事業を進めるにはリスクが大きい。引き続き経営強化プランに基づき経営改善に取り組むとともに、新病院基本設計の再見直しが必要と判断した。

R12年度以降の早期開院を目指す

2. 今後の予定



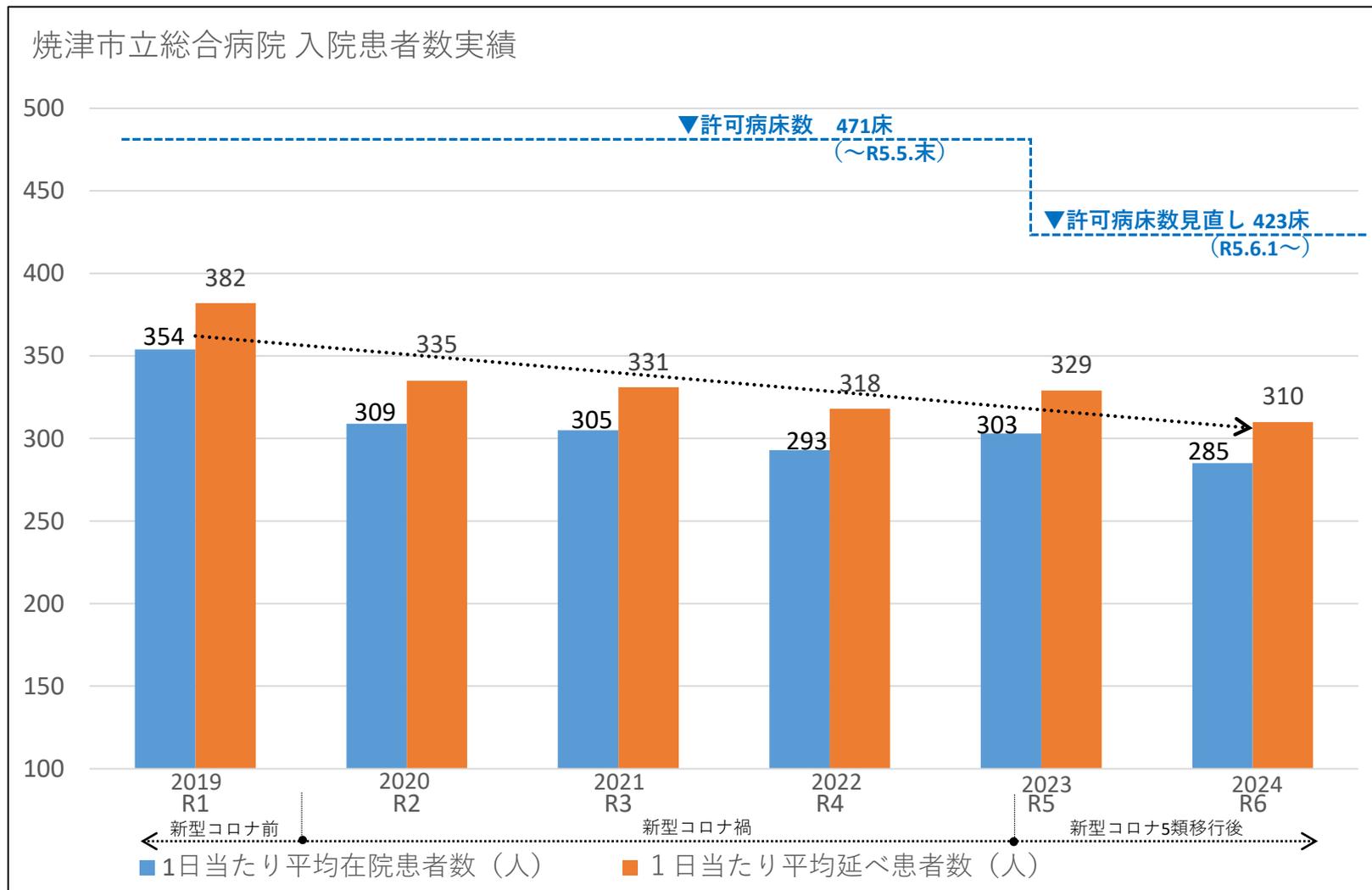
3.新病院病床数について

	R6.7.1調整会議 新病院病床数	R 7 基本設計再見直し
新病院病床数	4 2 3 床	3 5 0 床程度
内 病床機能	高度急性期病床 1 0 8 床 急性期病床 3 1 5 床	高度急性期病床 1 0 6 床程度 急性期病床 2 4 4 床程度

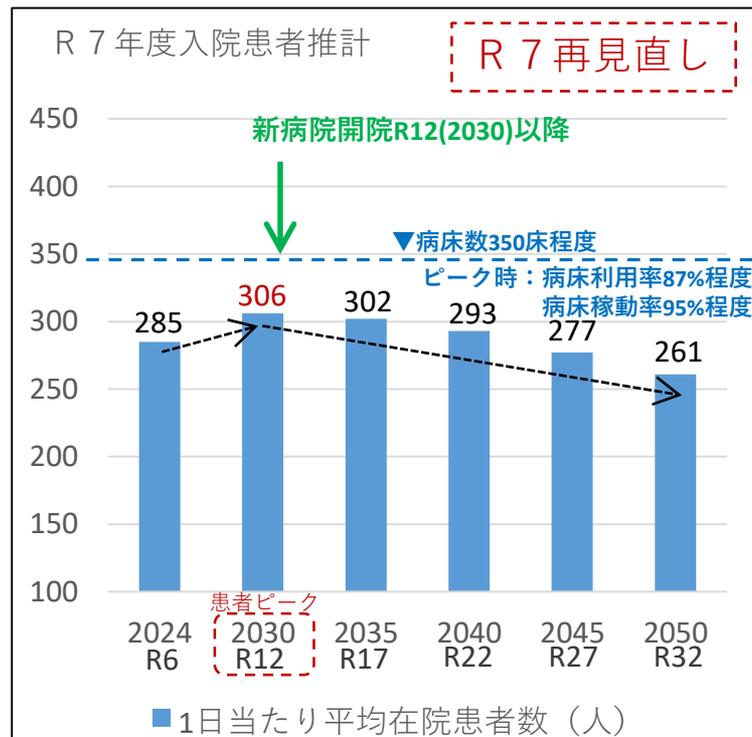
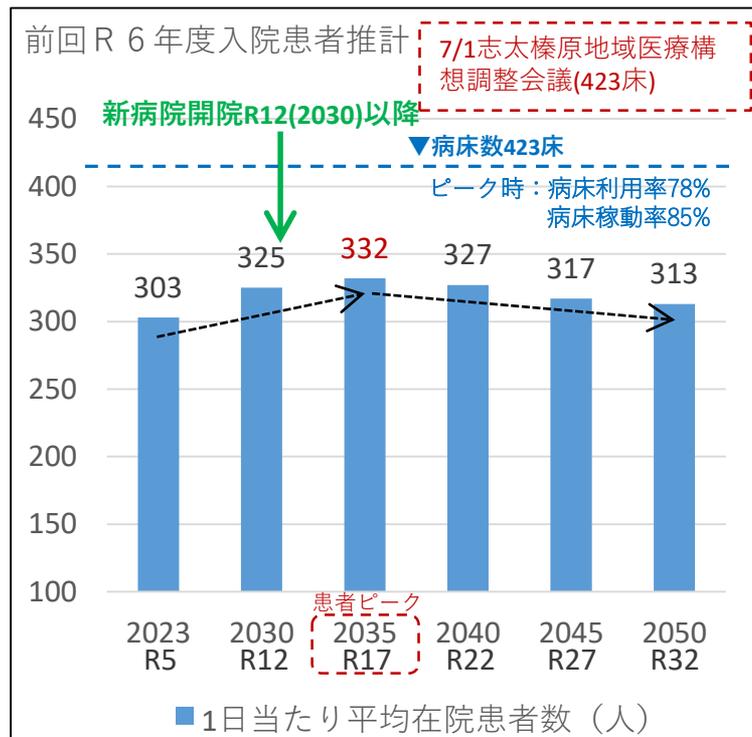
※ 当院が担っている2次救急医療、災害医療、小児・周産期医療、新興感染症等感染拡大時における医療の機能等については引き続き維持していく

※ 急性期病床の一部は、将来の医療需要に応じて回復期病床に転用可能な施設整備とする。(1病棟40床程度を想定)

4. (参考) 入院患者数の状況



5. (参考) 入院患者推計結果・必要病床数【R 7 再見直し】



- ・ 患者ピーク時期：2035年 → 2030年 新病院開院時（2030年以降）ピーク～ピークアウト
- ・ 入院（在院）患者数：ピーク時332人/日→306人/日（減少） 2050年313人/日→261人/日（前回よりも減少が大きい）

最新の人口推計・受療率及び当院入院患者実績等を踏まえ、再度将来患者数を推計した結果、人口年齢構造やR 6 年度以降の患者動向の変化により、これまでよりも推計入院患者数が減少した。また、新病院開院時に入院患者数はピークを迎えるものの、その後、ピークアウトしていく結果となった。

こうした中、持続可能な病院経営・医療提供体制を確保していくため、政策医療である小児・周産期病床を確保しつつ、患者ピーク時の効率的な病床運用を見込み、コンパクトな病床規模に見直す方針。